

# 芸術大学研究の国際的動向

—音楽・美術分野の英語文献から—

上月 翔太

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

## A Review of Studies on Music/Art Higher Education

Shota KOZUKI

Office for Educational Planning and Research, Institute for Education and Student Support, Ehime University

### 1. はじめに

#### 1.1 芸術大学研究の意義

日本における芸術大学や総合大学における芸術系学部（以下、芸術大学と総称する）に関する研究はいまだ発展途上にある。様々な要因から、芸術大学の実態把握に困難が伴うからであると考えられる。その困難の多くが、芸術大学で行われる専門教育の聖域性によるものである。この聖域性を象徴しているのが、中央教育審議会等の政策文書である。上月（2020）では高等教育や芸術文化政策に関連する政策文書において、芸術大学に直接関連する言及が極めて少ないこと、少数の言及は、行われる教育が少数の、特別な才能をもつ学生を対象にしたものとして想定されていることが示されている（上月，2020）。伝統的な徒弟制的な教育が行われていることもあり、芸術大学の教育は才能ある少数者のための聖域として位置づけられているといえる。

こうした中で本稿が芸術大学に注目するのは、大学教育全体が近年芸術に対して高い関心を寄せていることによる。芸術を専門としない大学においても、芸術を教育に取り入れる試みが行われるようになってきている。理工系分野 STEM（科学 Science，技術 Technology，工学 Engineering，数学 Mathematics）の教育と併せて、芸術（Art(s)）の教育の意義を謳った STEAM 教育に政策的に関心が寄せられている（中央教育審議会初等中等教育分科会，2021）。小中高等学校のみならず、大学においても STEAM 教育を標榜したカリキュラムの編成や、部門の設置などの動きがみられる<sup>1)</sup>。また総合大学と芸術大学の

学間連携も積極的に行われている<sup>2)</sup>。

それでは、芸術を専門としない大学教育において芸術にはどのような期待が寄せられているのか。ここでは一例として芸術を学ぶことによって学生が習得できるとされる資質・能力について示しておきたい。たとえば、価値観の涵養や創造性，問題発見力，問題解決力などの育成である。2019年に東京大学で発足した芸術創造連携研究機構は教育プログラムを「芸術的な感性を培うことで多様な価値観や創造的な発想力を育む」ことを目的に展開している<sup>3)</sup>。また、「高度デザイン人材」の育成に向けて作成され、「大学のカリキュラム設計責任者」を想定読者とした経済産業省（2019）は、「アート」の学習領域で求められる能力として「個々人の主観，批評的視点から問いを発する能力」「問いを具現化する能力（ビジョンデザイン，スペキュラティブデザイン）」を挙げている（経済産業省，2019）。以上のように、従来型の大学教育では育成が難しいと考えられる資質や能力の育成について、芸術に新たな可能性をみいだそうとしていることがうかがわれる。

以上のような大学教育全体の動向にあつて芸術大学研究のもつ意義は小さくない。それはたとえば芸術大学で行われている教育の中心が創作や実演といった実践であることによる。手を動かして作品を制作することや、楽器を演奏したり何かを演じたりする活動は、アクティブラーニングを促す学習活動として、芸術大学以外の大学でも有効な活動として提唱されている<sup>4)</sup>。

また芸術大学で伝統的に行われてきた教育で育成を目指されている資質や能力に、客観化や数値化の不可能な非認知能力が多く含まれている点も重要である。芸術大学にお

ける美術の実習シラバスの到達目標を調査した上月(2021)は、「美や感性、芸術に対する態度」や「社会における美術への関心」「自分の感性」といったものに注目する目標が一定程度あることを指摘している(上月, 2021)。いわゆる数値化の難しい資質や能力をどのように育成し、評価を行うかは今日のほとんどの大学が直面している課題であろう。芸術大学はこの課題に長く取り組んできたといえる。

このように芸術大学は今日の多くの大学の取り組みや直面している課題を先取りしてきたといえることができる。今後の大学教育全体のあり方を考える上で、芸術大学について理解を深めることには高い意義があるものと考えられる。

## 1.2 国内における芸術大学研究

それでは今日までにどのような芸術大学研究が行われているのであろうか。ここでは国内において芸術大学について行われてきた研究について概観する。まず、国内の芸術大学を主たる研究対象としているものである。たとえば、芸術大学に在籍する学生のキャリア意識を対象とした研究(喜始, 2015; 松崎, 2021)、舞踊系大学のカリキュラムの現状調査を行った研究(大迫, 2019)、音楽実技系学科の教育の質保証を扱った研究(森田, 2017)、音楽大学におけるFDの実践に関連する理論とともにまとめた研究(中西, 2020)などがある。いずれも日本語による先行研究が少ない中で取り組まれている点で貴重な研究である。

海外の芸術大学事情を扱った先行研究も存在している。たとえば、音楽分野の高等教育機関の評価について日米比較を試みた研究(中村, 2012)、同じくアメリカの音楽分野の高等教育機関の組織構成について分類整理を試みた研究(高木, 2020)である。他に美術分野では、たとえば、米国の美術大学のプログラムレビューに関する研究(山口, 2018a)がある。同著者は英国の分野別参照基準(Subject-benchmark Statement)の「アート&デザイン」版(2017)の日本語訳も公表している(山口, 2018b)。これらの成果はいずれも日本の芸術大学研究にも資するところが大きい。

## 2. 本稿の目的と方法

### 2.1 本稿の目的

以上のような先駆的な試みはあるものの、芸術大学を対象とした研究は、まだ量的な充実はみていないのが現状である。そこで日本における芸術大学研究をより充実させることが喫緊の課題である。これにより芸術大学における教育の質保証やFDなどに資する知見を得ることもできる。ここまでに取り上げた、芸術大学以外の大学における芸術の導入の促進、あるいは芸術以外の多様な分野における教育に、芸術大学の教育の知見を活かすことも期待できるだ

らう。

そのひとつの基礎資料とすべく本稿は、英語による研究論文を広く収集し、それらの論点を分類整理することで、今後日本の芸術大学研究が取り組むべき課題には何があるのかを示唆を与えることを目指す。

また、本稿は音楽と美術という2つの芸術分野についてそれぞれ文献の収集を行うこととした。これは先行する国内の研究が示しているように、芸術大学研究は実際には音楽大学研究、美術大学研究と芸術の分野を限定したものになるのが通例だからである。芸術分野ごとの特徴や、逆に分野にかかわらず傾向を示すことで、今後の個別大学、個別の分野の芸術大学研究のための論点を検討する際の視野の拡大に貢献できるものと考えている。

なお、本稿の主たる目的は英語による芸術大学研究が扱っている問題の領域について概略を描くことにある。したがって、個々の文献についての精密な批評は行わない。本稿で確認された個別の論点についてより精密なレビューは他日に期すことにしたい。

### 2.2 レビューの方法

直近10年の研究を本レビューの対象とするために、文献検索ツールGoogle Scholarによって2010年以降に発表された、音楽、美術の2つの領域の高等領域に関する文献(論文、プロシーディングス)を収集した<sup>5)</sup>。音楽と美術という2つの分野を対象としたのは、音楽はいわゆる上演芸術として、美術は造型芸術として主要な芸術活動と位置づけられ、またそれぞれ音楽大学、美術大学という単科の教育機関も多く存在しているからである。検索語については日本と海外の高等教育機関の違いに配慮した。音楽(music)、美術(art(s))それぞれとuniversity, college, higher educationを組み合わせて検索を行った。収集した文献の中から高等教育に関連するもの、専門教育に関連するものをアブストラクトなどから判断し選び出した。なお、収集した文献の中には教員養成について扱ったものが数点あった。これらについてはいずれも論点が教員養成一般にかかわるものと判断されたため、本調査からは除外した。結果として、音楽、美術両分野についてそれぞれ55文献、58文献を対象とした。なお扱った文献は巻末に一覧化している。

収集した文献については、主として扱われている対象や課題によって整理を試みた。次章では音楽分野と美術分野それぞれについて章を分けてレビューの結果を提示する。提示に際しては、以下の3つに整理を試みた。すなわち、「学生」「教育方法」「その他」である。国内の先行する芸術大学研究が多く学生を対象にしていたことから「学生」の項を立て、本稿が主たる関心を寄せている「教育方法」の項を別に設けた。以下では、学生に焦点をあてた研究を「学生」、教育内容や教授法、評価についての研究を「教育方法」、

以上の2つに当てはまらないと判断されるものを「その他」と分類している。非常に大まかな分類ではあるが、どういった論点があるのか、芸術の分野ごとに論点の傾向にどのような類似や相違があるのかを検討するために、あえて大きな分類を行うこととした。最後に音楽分野、美術分野それぞれの研究動向について比較を試み、分野による研究動向の類似、相違を明らかにすることも試みる。

### 3. 音楽分野の研究動向

音楽分野について収集した55文献についてまず整理を示す。全体の結果については表1に示す。

#### 3.1 学生

音楽分野の研究文献で量的に目立つのが学生を対象にした調査研究である。表には23件が挙げられている。

この中でも特に顕著なのが音楽大学の学生に対する医学的研究である。聴力低下や筋骨格の障害をはじめとした、学生がかかりやすい身体的な課題について取り扱った研究がみられる。

また、音楽大学の学生特有の心理的課題について扱うものも複数みられる。その多くが演奏における不安を扱うものである。また学生の燃え尽きや精神的な疾患についても扱われている。以上のような学生の身体的、心理的な諸論点は、音楽大学特有の研究関心となっていることがうかがわれる。

そのほかの論点には以下のようなものがみられる。学生の学習スタイルを調査した研究、協同学習を扱った研究、学生の文化資本に注目した研究である。また、学生の多様性を扱った研究もみられる。外国人学生に対する意識調査や音楽の高等教育における女性の学習機会について検討したものである。

#### 3.2 教育方法

教育方法についての研究はさらに以下のように分類できる。教育内容、教育プログラム、デジタル等の活用、個別指導、目標である。

教育内容についての研究は、音楽教育が基本的に西洋の伝統的な音楽（クラシック音楽）の教育を主としていることに対し、それ以外の音楽教育のあり方を問うものが目立つ。収集した文献の中ではとりわけ、民族音楽（中国、インド、アフリカ）とポピュラー音楽が議論の対象となっている。このほかに知的財産についての教育アプローチを検討したものがある。演奏家として生計を立てられる卒業生は現実的に少ないことからどのように学生にキャリアについて学んでもらうかを扱ったものもある。

次にまとめたのが教育プログラムについての文献である。正課外の諸活動も含めた一連の教育活動についての調

査報告がここに含まれる。一国内における音楽教育のプログラムを調査したもの、海外での活動を取り入れた教育プログラムの事例研究、正課外活動と正課の連携を取り扱ったものがある。

次にみられるのが、デジタルを活用した教育の可能性を検討するものである。ここではeラーニングやブレンデッド教育が扱われている。

また、個別指導についての研究もみられた。基本的には、伝統的に音楽大学で行われてきた、個別で行われるレッスンについての研究である。ただし、大学院生への論文作成指導についてもここには含まれる。

最後に目標としてまとめたのが、高等教育における音楽教育の目的や養成すべき能力について論じる研究である。「表現力 (expressivity)」をめぐる教員と学生概念を調査した研究のほかに、教育機関として音楽の高等教育の目標をどのように定めるべきかを考察したものもある。またカリキュラムとの関係において教育目標について理論的に考察した研究もここに含まれている。

#### 3.3 その他

最後にその他の研究について概観しておきたい。表1にも掲載の通り、政策関連、歴史研究、社会との関連、高等教育への接続、教員研究、高等教育の意義とした。政策関連は文化政策、とりわけ芸術人材養成と高等教育の関係が扱われている。歴史研究は特定の学校の歴史が調査されている。社会との関連を扱った研究は、音楽大学を地域の芸術振興の拠点と位置づけ、その機能を論じている。高等教育への接続は、先立つ教育課程を終え、高等教育に移行する学生に必要な能力とは何かを検証している。教員研究は、演奏家でもある教員の教員としてのアイデンティティについて調査を行ったものである。高等教育の意義では、音楽の高等教育を受けた学生の成功について説明を試みている。

## 4. 美術分野の研究動向

美術分野58文献についても音楽分野と同様、各論点についてその内容を示していく。分類の全体については表2にまとめている。

#### 4.1 学生

美術分野の学生研究は大きく学生の学習についての研究と学生の心理的傾向、多様な学生についてのものに分類できる。まず、学生の学習については、学生への聞き取りから学習の展開を描き出そうとするもの、学生の学習について調査を行ったものがある。自己効力感やメタ学習などについて調査を行うもの、スタジオをはじめとした学習環境についての示唆を与えるものがみられる。



また学生の心理的課題を扱った文献もいくらかみられる。美術大学の学生にしばしばみられる精神疾患についての研究やメンタルヘルスについて調査を行ったものがある。また美術大学のアイデンティティやシニシズムなどしばしばみられる性格の傾向について調査を行ったものがある。

多様な学生について扱っている研究がいくらかみられる。男性の労働者階級の学生、障害のある学生といった具体的な学生について扱っている文献のほかに、芸術大学へのアクセスが一部の人々に限定されている状況について考察するものがある。

## 4.2 教育方法

教育方法についての研究は以下のように分類できる。すなわち、教育内容、評価、目標、工房での教育、デジタル等の活用、学際的教育、その他である。

まず教育内容については、以下のようなものが対象とされている。環境、イデオロギー／政治、メンタルヘルス、英語、起業、インダストリアルアート、ライティング、ドローイングである。インダストリアルアートとドローイングを除いて、美術そのものではない教育内容である。メンタルヘルス教育が扱われるのは、先述の学生研究においてメンタルヘルスが1つの重要な関心となっていることに対応しているだろう。また、イデオロギー／政治と起業については卒業後のキャリアとの関連から考察されている。

次に評価である。美術分野の評価のアプローチを検討するものや、実際に行われている評価について調査を行っているものが含まれる。また美術系の学部で行われる評価における「目利き (connoisseurship)」について教員へのインタビューを通じて検証するものがある。

また、目標についてもいくらかの研究がある。中国のコアリテラシーの育成の養成が美術大学でいかに行われるべきかを検討したものや図書館職員と連携した情報リテラシーの養成についての研究である。創造性を高めることを目標にした教育方法の検討を行ったものもある。

伝統的な工房教育については、レビューと今後に向けた問題提起を行っているものや英国の分野別参照基準や各種調査を根拠に工房における教育の意義を考察したものがある。

デジタル技術の活用については、学習共同体の活動における ICT 技術の活用を美術、デザイン教育領域において検討したものがある。

学際的な教育についての文献も複数確認できる。美術系学部の学生が他学部の学生と協同で学習する授業や教育プログラムについての研究である。環境科学や自然資源学といった理系学部の学生との学習であり、取り組む内容も理系寄りの内容になっている。

この他にも様々な論点を取り上げられている。初年次教

育を扱ったもの、教授法一般について調査を行ったもの、カリキュラム研究などである。

## 4.3 その他

最後にその他に分類した文献である。表2では社会との関連、歴史研究、学内施設、高等教育への接続、教員研究、アートスクールの機能、芸術分野の高等教育研究方法、学校への評価、奨学金としている。

分野ごとの比較は後に詳細に行うが、その他については音楽分野と共通する論点がいくらかある。社会との関連や高等教育への接続、教員研究である。

一方でここに挙げた美術大学の研究上の論点においては高等教育機関の組織体制にかかわるものが目立つ。学内施設では大学が擁する図書館や美術館といった諸機関との連携について論じられている。あるいは学校への評価は大学ランキングによる評価やア Krediteーションに関する考察によって、教育機関として評価を受けることが論点とされている。また、アートスクールの機能はいわゆる大学とは異なる美術の高等教育機関であるアートスクールの変遷について考察されている。

以上、音楽分野と美術分野について、それぞれの文献が扱っている論点の傾向について分類し、その内容について簡単に紹介した。

## 5. 音楽分野と美術分野の論点上の比較

以下では、ここまでに行った2分野の論点について比較を試みる。ここまで用いてきた「学生」「教育方法」「その他」について両分野の論点の類似と相違を指摘する。これによる分野ごとの研究動向の違いを明らかにし、それぞれの分野でより検討されるべき論点の所在を明らかにすることを試みたい。

### 5.1 共通した傾向

まずは両分野において共通してみられる傾向である。いずれの分野も所属する学生を対象とした調査や研究がみられ、その中でもとりわけ学生の心理的課題について扱ったものが一定数みられる。また、いわゆる精神疾患ではなく、性格的な傾向や陥りやすい心理状態に注目した研究が両分野にみられる。たとえば音楽分野にみられた燃え尽きや美術分野にみられたシニシズムといったものである。こうした学生のメンタルヘルスや心理状態に注目した研究は、芸術以外を学ぶ学生を対象にしても行われていることから、大学生の実態についての研究のひとつとして位置づけることができるだろう。

これと併せて学生の学習の過程を研究対象としたものも両分野で共通している。美術や音楽を学ぶ学生に特徴的な

学習の方法について調査が行われている。

また多様な学生について扱った研究も両分野に共通してみられる。これも大学教育全体において大きなトピックであるといえる。障害の有無、国籍、性による学習機会の違いなどが扱われている。大きな問題意識としては芸術にかかわる高等教育が一部の人々に限定されている状況を論じているものが目立つ。以上が学生研究における両分野の共通した傾向である。

次に教育方法に分類した研究についてである。まずは両分野ともに伝統的に行われてきた主要な教育方法についての研究がほとんどないことが共通した傾向として挙げられる。音楽であれば1対1の個別指導であり、美術であれば工房における制作である。これらについて扱った文献は皆無ではなかったが、非常に少なかったことは指摘できる。また、デジタル技術など新しい技術を活用した教育の可能性については両分野ともにいくらかみられた。

最後にその他に分類した研究についてである。まずは高等教育への接続について考察した研究が両分野にみられた。これは先述の多様な学生の学習機会の研究とも重なる論点である。

また、社会における芸術大学の意義について扱ったものがそれぞれ数件ずつみられる。芸術大学が置かれた社会において担う具体的な役割について調査を行ったものや、やや評論めいたものまで議論の具体性には差があるが、教育、研究機関にとどまらない芸術大学の役割について検討を行っている。

ここまで音楽分野、美術分野で共通してみられる研究上の論点についてまとめた。全体としては大学教育一般において扱われている論点と総じて共通していることがわかる。

## 5.2 異なる傾向

次は音楽分野と美術分野における研究上の論点の相違を挙げていく。まず学生研究については、医学系の研究が非常に多い音楽分野に対し、美術分野には医学系の研究がほぼみられないことが大きな違いである。先述の通り、メンタルヘルスに関連する研究は共通してみられるが、身体的な課題を扱った美術分野の文献はみられない。表1と表2それぞれの文献の量は、音楽分野が多く、美術分野が少ないがこの違いは主に医学系の文献の量によるものである。

次に教育方法に関する研究における相違である。これについては5つ指摘できる。

第1の相違は、それぞれの分野におけるジャンル意識の有無である。すなわち、音楽分野は西洋のクラシック音楽という1ジャンルが教育の中心に据えられているため、それ以外の音楽（民族音楽やポピュラー音楽など）の位置づけをめぐる議論がしばしば展開されている。しかしながら、美術についてはどういった美術を教育するのかについて具

体的なジャンルや領域が言及されているものは多くない。この相違は音楽と美術のジャンル意識の強さに対応したものと考えられる。教育内容としても西洋の声楽と民族音楽の歌謡では発声の方法が根本的に異なるように、音楽ではジャンルごとに教育内容は全く異なる。こうした音楽分野の特性から、研究上の関心の相違が生じるものと考えられる。

第2の相違は専門以外の教育内容の取り扱いについてである。美術分野の教育内容について行われた研究のほとんどが美術以外の領域についての研究であった点は音楽分野と対照的である。専門分野の各ジャンルについての言及にみられた第1の相違をいわば裏返したものであるといえる。美術分野ではいわば共通教育にあたる教育内容に研究上の関心が向けられているといえるだろう。

第3の相違は、学際性に関するものである。これも音楽分野と美術分野で顕著に異なっている。他学部の学生との協同学習で進められる教育を扱った文献が美術分野で複数みられたが、これは音楽分野にはなかった。これは美術分野の教育を他分野とコラボレーションさせようとするSTEAM教育などの文脈に連なっているとも考えられるであろう。

第4の相違が評価への関心である。これも美術分野にみられ、音楽分野には明確には扱われていない。音楽も美術も、いわゆる試験などでの評価が難しい。一方で、成果物がモノとして残る美術に対して、録音などを除けば、その場で成果物であるパフォーマンスが消えてしまう音楽では評価について検証を行うのが難しいという事情も考えられる。

最後にプログラムレベルでの教育への関心の程度である。音楽ではコースやカリキュラムなど名称は様々だが、教育課程に対する関心をうかがわせる研究がいくらかみられる。こうした研究は美術には皆無でないが、あまりみられない。

以上、教育方法について5つの相違を取り上げた。総じて、音楽と美術というそれぞれの分野の特徴を反映した相違となっている。

最後にその他に分類した研究にみられる相違について取り上げたい。両分野いずれもここには複数の論点が混在しているので、明確な相違を指摘することは難しいが、1点のみ指摘したい。それは美術分野が比較的、組織という側面に関心をおいていることである。たとえば学内の図書館や美術館との連携や学校として受ける評価を論点としているのは美術分野の方である。音楽分野の研究でも組織的な取り組みなどについて言及はされているものの、その程度は美術分野ほどではない。さらに美術分野では、先述の他学部の学生との学びあいの機会を含めることもできるだろう。

## 6. 国内芸術大学研究への示唆

ここまで行ってきた英語による研究上の論点を踏まえ、日本における芸術大学研究にどのような示唆が与えられるかを検討したい。

まず事前に断っておくべきは本研究の限界である。芸術大学に関連して行われている研究について文献の調査を本研究では行ったが、日本での状況と同様、この領域についての研究は量的に非常に乏しいものであることには留意しておかねばならない。全体として決して多くない文献のレビューであるので、まだ重要な論じられていない論点も数多くあることが想像される。また分野による相違で一方にあって、他方ない論点をいくらか挙げたが、これも純粋な研究の絶対量の少なさに起因しているとも考えられる。世界的に研究の量的充実が望まれることはいうまでもない。

また、日本と諸外国とで芸術の専門教育を行う教育機関の位置づけが異なることも留意しておきたい。本研究では日本との対応を見越して「大学 (college, university)」で文献の調査を行ったが、音楽であればたとえば音楽院、美術であればアートスクールといった学校も存在する。本研究はこうした教育機関を除外していることから、芸術の専門教育の全体像を捉えかねているともいえる。

さて、本研究の限界を踏まえつつも、本研究が今後の日本の芸術大学研究に与える示唆を挙げていきたい。ここでもこれまでの通り、「学生」と「教育方法」について挙げていくことにする。

まず学生研究についてであるが、芸術大学に所属する学生に固有の課題を明らかにする研究が国際的な動向として挙げられたことから、こうした研究が日本でも展開されることが望まれる。国内ではこれまで、芸術大学の学生のキャリアをめぐる研究は比較的行われてきた。ただその一方で、表現に関して学生が抱える課題についてはまだ十分な検証は行われていない。中には医学や心理療法といった分野で扱うべきものもあるが、大学教育の分野においても可能な貢献はあると考えられる。そしてこうした研究はこれまで行われてきた学生のキャリアをめぐる研究とも接続し得るものではないか。

次に教育方法についてである。まずは専門教育に関する研究の量的充実が図られるべきである。そのための観点として本研究からはいくつかのものが提案し得る。まずは専門教育で教育される内容である。音楽分野では、それぞれのジャンルをいかに扱うのかということに研究上の関心が集まっていたが、同様のことは美術分野にも想定されるものと考えている。日本の美術大学のシラバスを調査した上月 (2021) は、そこで「絵画」「デザイン」「彫刻」などのジャンルの違いによって、教育目標の記述に違いがあることを示した (上月, 2021)。このように美術であってもその領

域において、教育のあり様は全く異なることが想像される。また、外国語をはじめとした共通教育について、それらの授業を芸術大学の学生はどのように履習しているか、教員はどのような意図をもって授業を行っているか、さらにはカリキュラムとしてどのような特徴が一般の大学と比べてみられるのかといったことも観点になるであろう。共通教育についての研究は音楽分野の文献にはほぼみられなかったが、同じく大きな論点となるだろう。

教育方法について特筆すべきは評価の研究の充実である。本研究では美術分野のみに指摘されたが、今後芸術分野の評価については大きな論点になりうるものと想定される。芸術を専門としない学生にも芸術に類した活動を取り入れようとする動向がみられるようになってきているからである。この動向が進むほど、そうした活動に対する評価が問題としてより顕在化することになる。芸術分野における評価の問題は、芸術大学を越えたニーズをもっていると考えられる。

以上のような論点について取り組む基本的な方法は質的な方法がまず中心になるものと考えられる。実際、今回調査を行った多くの研究が大規模な調査紙よりも個々の学生や教員へのインタビューなどが中心であった。先の評価の方法などは数値による測定が難しい側面もあるため、質的な方法がまず採用されるものとなるだろう。

一方でカリキュラムについての調査も行われるべきである。カリキュラムに関する調査研究は本研究の中で確認した限り多くはなかった。今日ウェブサイトなどでカリキュラムやシラバスが公開されていることから、これらの情報を収集、整理しカリキュラムの構造やその傾向などについてまとめる研究も求められていると考える。

## 7. 結論

本論文は音楽分野、美術分野の英語による研究文献で扱われている論点を収集、分類し、国際的な芸術大学研究の動向を示そうと試みたものである。量的な充実がまだまだ必要であることが明らかである一方で、分野ごとの論点の共通点や相違点がみいだされた。芸術教育のもつ価値に社会が広く関心を寄せている今日、芸術の専門教育の実態を正しく把握し、その改善に資する研究の必要性は高まっているものといえる。本研究の提示した論点をもとに今後さらなる研究が日本においても展開することが期待される。

### 注

- 1) たとえば、金沢大学「先導 STEAM 人材育成プログラム」、大分大学「STEAM Lab.」など。
- 2) たとえば、武蔵野美術大学や多摩美術大学といった美術大学が芸術大学以外の大学と連携する取り組みを行っている。
- 3) 東京大学芸術創造連携研究機構ウェブサイト「ACUT につ

- いて」
- 4) バークレイ他 (2020) では、たとえば「コラージュ」「写真集」「動画」などの「デジタル作品」の作成や「演劇ダイアログ」といった活動を一般の学生を対象とした学習活動の例として紹介している。
- 5) 本稿は書籍を対象から外しているが、高等教育に関する研究書籍の出版もちろん行われている。最近では Westerlund and Gaunt (eds.) (2021) と Leduc and Bèland (eds.) (2021) などがある。

表 1 音楽分野

分類	該当文献
学生 (23 件)	医学関連 (7 件) Árnason et al. (2018), Chesky (2011), Henning et al. (2016), Lonsdale et al. (2016), Montello (2010), Steinmetz et al. (2012), Zander et al. (2010) 心理的課題 (7 件) Araújo et al. (2017), Bernhard (2010), Demirbatir (2015), Huang (2019), Juncos et al. (2015), Wristen (2013), Zakaria et al. (2013) 学習 (4 件) Burwell et al. (2011), Evans et al. (2015), Kan et al. (2021), Tanwinit et al. (2010) 多様な学生 (4 件) Bennett et al. (2018), de Boise (2018), Choi (2012), Moore (2012) その他 (1 件) Freer et al. (2012)
教育方法 (24 件)	教育内容 (11 件) Bartleet et al. (2019), Cloonan et al. (2012), Katz (2012), Otchere (2015), Parkinson et al. (2015), Przybylski et al. (2015), Song (2013), Ben-Tal et al. (2014), Thibeault (2012), Weston (2017), Yang et al. (2016) 教育プログラム (4 件) Bartleet et al. (2020), Bújez (2012), Pasca (2016), Pitts (2013) デジタル等の活用 (4 件) Cruywagen et al. (2020), Digolo et al. (2011), Gorbunova et al. (2020), Partti (2012) 個別指導 (3 件) Froehlich (2012), Gaunt (2011), Johansson (2012) 目標 (2 件) Bonastre et al. (2017), Yumeng (2016)
その他 (8 件)	政策関連 (1 件) Schmidt et al. (2011) 歴史研究 (1 件) Spencer (2013) 社会との関連 (2 件) Dovzhynets (2019), Roennfeldt (2011) 高等教育への接続 (1 件) Moore (2013) 教員研究 (2 件) Parkes et al. (2013), Parkes et al. (2015) 高等教育の意義 (1 件) Bennett (2012)



表2 美術分野

分類	該当文献
学生 (11 件)	学習 (6 件) Gui (2019), Hu (2020), Logan (2013), Peng (2012), Salazar (2016), Winters (2011) 心理的課題 (3 件) Broadhead (2014), Mengyi (2021), Wang (2018) 多様な学生 (2 件) Broadhead (2017), Hayton et al. (2015)
教育方法 (30 件)	教育内容 (10 件) Alexandrova (2020), Heruti (2019), Hongmei et al. (2016), Ilkevich et al. (2015), Jian (2020), Luo et al. (2019), Lyon et al. (2018), Roth (2010), Thom (2017), Zhou et al. (2015) 評価 (6 件) Costantino (2015), Giloi et al. (2013), Giuntini et al. (2014), Harland et al. (2012), Orr (2010), Orr et al. (2012) 目標 (4 件) Beene et al. (2017), Greene et al. (2019), Huang (2019), Meeks et al. (2017) 工房での教育 (2 件) McHugh (2014), Salazar (2014) デジタル等の活用 (1 件) Sclater (2016) 学際的教育 (2 件) Heinrich et al. (2021), Jacobson et al. (2016) その他 (5 件) Camino (2010), Salazar (2013), Shreeve et al. (2010), Szeto (2010), McTernan (2019)
その他 (17 件)	社会との関連 (4 件) Gale (2020), Gharenbaglou et al. (2017), Kenning (2019), Trihanondo et al. (2019) 歴史研究 (1 件) Bhowmik (2015) 学内施設 (2 件) Clark (2011), Howe (2011) 高等教育への接続 (3 件) Burke et al. (2011), O'Donoghue (2011), Maguire (2015) 教員研究 (1 件) Ma et al. (2019) アートスクールの機能 (1 件) Banks et al. (2016) 芸術分野の高等教育研究方法 (1 件) Trowler (2013) 学校への評価 (3 件) Fan (2021), Robins (2016), Thompson-Whiteside (2016) 奨学金 (1 件) Ganem et al. (2011)



## 文献表 (レビュー対象文献以外)

- 大迫菜緒 (2019) 「舞踊 (ダンス) 系大学のカリキュラムの現状」, 『桜美林論考人文研究』 11, pp.20-37.
- 喜始照宣 (2015) 「美術系大学からの卒業後進路選択—作家志望に着目して」, 『高等教育研究』 18, pp.191-211.
- 経済産業省 (2019) 「高度デザイン人材育成の在り方に関する調査研究報告書」
- 上月翔太 (2020) 「大学教育と芸術—政策文書からの示唆」, 『第27回大学教育研究フォーラム発表論文集』 p.94.
- 上月翔太 (2021) 「芸術創造活動の高等教育的意義—芸術大学のシラバス分析から」, 『大学教育学会第43回大会発表要旨集録』, pp.70-71.
- 高木望帆 (2020) 「アメリカの「高等教育機関における音楽教育」(HME)の組織的基盤: NASM 認証校に焦点を当てて」, 『名古屋高等教育研究』 20, pp.425-444.
- 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2021) 「参考資料1「STEAM教育に関係する政府等の主な方針(抜粋)」」
- 中西千春, 本島阿佐子 (2020) 「演奏教師のためのFD(レッスン改善): 草の根FDプロジェクト2019」, 『研究紀要』 55, pp.337-348.
- 中村美亜 (2012) 「音楽に携わる高等教育機関の評価—欧米での近年の動向と日本における課題と展望」, 『音楽教育実践ジャーナル』 10 (1), pp.56-66.
- エリザベス・F・パークレイ, クレア・ハウエル・メジャー (東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門, 吉田壘監訳) (2020) 『学習評価ハンドブッカーアクティブラーニングを促す50の技法』 東京大学出版会.
- 松崎久美 (2021) 「芸術系大学のキャリアについて—文献調査とイギリスの事例から」, 『名古屋芸術大学キャリアセンター紀要』 10, pp.161-174.
- 森田学 (2017) 「芸術大学における教育の質保証に関する一考察—音楽実技系の学科の場合」, 『東京造形大学研究報』 18, pp.90-99.
- 山口豪 (2018a) 「CalArtsのプログラムレビューに関する考察: わが国コンテンツ教育分野の質保証・向上への示唆」, 『大学評価研究』 17, pp.113-124.
- 山口豪 (2018b) 「QAA 分野別参照基準 アート & デザイン 2017年2月(邦文仮訳)」, 『コンテンツ教育学会誌』 2, pp.26-47.
- Leduc, D. and Bèland, S.(eds.) (2021), *Perspectives on Learning Assessment in the Arts in Higher Education*, New York: Routledge.
- Westerlund, H. and Gaunt, H.(eds.) (2021), *Expanding Professionalism in Music and Higher Music Education: A Changing Game*, New York: Routledge.

## 参考リンク

- 武蔵野美術大学「東京工業大学との教育研究交流」  
<https://www.musabi.ac.jp/collaboration/consortium/tit/>
- 多摩美術大学「大学間連携」

- <https://www.tamabi.ac.jp/effort/cooperation-univ.htm>  
 東京大学芸術創造連携研究機構「ACUTについて」  
<https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/about/>  
 (いずれも2021年12月9日確認)

## レビュー対象文献

### 音楽分野

- Araújo, L. S., Wasley, D., Perkins, R., Atkins, L., Redding, E., Ginsborg, J. and Williamon, A. (2017) "Fit to Perform: An Investigation of Higher Education Music Students' Perceptions, Attitudes, and Behaviors toward Health" *Frontiers in Psychology* 10, 1-19.
- Árnason, K., Briem, K. and Árnason, Á. (2018) "Effects of an Education and Prevention Course for University Music Students on Their Body Awareness and Attitude toward Health and Prevention" *Medical Problems of Performing Artists* 33(2), 131-136.
- Bartleet, B. L., Grant, C., Mani, C. and Tomlinson, V. (2020) "Global Mobility in Music Higher Education: Reflections on How Intercultural Music-making can Enhance Students' Musical Practices and Identities" *International Journal of Music Education* 38(2), 161-176.
- Bartleet, B. L., Ballico C., Bennett, D., Bridgstock, R., Draper, P., Tomlinson, V. and Harrison, S. (2019) "Building Sustainable Portfolio Careers in Music: Insights and Implications for Higher Education" *Music Education Research* 21(3), 282-294.
- Bennett, D., Macarthur, S., Hope, C., Goh, T. and Hennekam, S. (2018) "Creating a Career as a Woman Composer: Implications for Music in Higher Education" *British Journal of Music Education* 35(3), 237-253.
- Bennett, D. (2012) "Rethinking Success: Music in Higher Education" *International Journal of the Humanities* 9(5), 181-187.
- Bernhard, C. (2010) "A Survey of Burnout among College Music Majors: a Replication" *Music Performance Research* 3, 31-41.
- de Boise, S. (2018) "Gender Inequalities and Higher Music Education: Comparing the UK and Sweden" *British Journal of Music Education* 35(1), 23-41.
- Bonastre, C., Muñoz, E. and Timmers, R. (2017) "Conceptions about Teaching and Learning of Expressivity in Music among Higher Education Teachers and Students" *British Journal of Music Education* 34(3), 277-290.
- Bújez, A. V. and Mohedo, M. T. D. (2012) "New Challenges for Music Studies in Higher Education" *Procedia - Social and Behavioral Sciences* 69, 571-578.
- Burwell, K. and Shipton, M. (2011) "Performance Studies in Practice: an Investigation of Students' Approaches to Practice in a University Music Department" *Music Education Research* 13(3), 255-271.
- Chesky, K. (2011) "Schools of Music and Conservatories and

- Hearing Loss Prevention” *International Journal of Audiology* 50(sup.1), S32-S37.
- Choi, J. H. (2012) “Attitudes of International Music Students from East Asia toward US Higher Education Institutions” *International Journal of Music Education* 31(3), 346-358.
- Cloonan, M. and Hulstedt, L. (2012) “Taking Notes: Mapping and Teaching Popular Music in Higher Education” *Technical Report, Higher Education Academy, York*.
- Cruywagen, S. and Potgieter, H. (2020) “The World We Live in: A Perspective on Blended Learning and Music Education in Higher Education” *The Journal for Transdisciplinary Research in Southern Africa* 16(1), 1-9.
- Demirbatir, R. E. (2015) “Relationships between Psychological Well-being, Happiness, and Educational Satisfaction in a Group of University Music Students” *Educational Research and Reviews* 10(15), 2198-2206.
- Digolo, B. A., Andang’o, E. A. and Katuli, J. (2011) “E- Learning as a Strategy for Enhancing Access to Music Education” *International Journal of Business and Social Science* 2(11), 135.
- Dovzhynets I. G. (2019) “Music Education as a Factor of Musical Environment Formation: Using Teaching Music in Ukrainian Province as an Example” *Central Asian Journal of Art Studies* 4(2), 92-100.
- Evans, P. and Bonneville-Roussy, A. (2015) “Self-determined Motivation for Practice in University Music Students” *Psychology of Music* 44(5), 1095-1110.
- Freer, P. K. and Bennett, D. (2012) “Developing Musical and Educational Identities in University Music Students” *Music Education Research* 14(3), 265-284.
- Froehlich, H. (2012) “Mentoring Doctoral Students in Music Education: Personal Reflections about Ethical Choices and Conflicts in Higher Education” *Action, Criticism, and Theory for Music Education* 11(1), 43-61.
- Gaunt, H. (2011) “Understanding the One-to-one Relationship in Instrumental/Vocal Tuition in Higher Education: Comparing Student and Teacher Perceptions” *British Journal of Music Education* 28(2), 159-179.
- Gorbunova, I. B. and Morozov, S. A. (2020) “Music Computer Technologies in Teaching Students with Visual Impairments in Music Education Institutions” *Journal of Critical Reviews* 7(19), 3274-3284.
- Henning, R. L. W. and Bobholz, K. (2016) “Distortion Product Otoacoustic Emissions in College Music Majors and Nonmusic Majors” *Noise Health* 18(80), 10-20.
- Huang, W. L. (2019) “An Investigation into Taiwanese Music College Students’ Self-management of Musical Performance Anxiety” Doctoral thesis, Royal College of Music.
- Johansson, K. (2012) “Experts, Entrepreneurs and Competence Nomads: the Skills Paradox in Higher Music Education” *Music Education Research* 14(1), 45-62.
- Juncos, D. G. and Markman, E. J. (2015) “Acceptance and Commitment Therapy for the Treatment of Music Performance Anxiety: A Single Subject Design with a University Student” *Psychology of Music* 44(5), 935-952.
- Kan, R. and Martin, R. (2021) “Shifting Lights through the Interstices: Extending Notions of What It Means to Learn Music in Higher Education” *Research Studies in Music Education*.
- Katz, M. (2012) “Institutional Communalism in North Indian Classical Music” *Ethnomusicology* 56(2), 279-298.
- Lonsdale, K. and Boon, O. K. (2016) “Playing-Related Health Problems among Instrumental Music Students at a University in Malaysia” *Medical Problems of Performing Artists* 3(1), 151-159.
- Montello, L. (2010) “The Performance Wellness Seminar: An Integrative Music Therapy Approach to Preventing Performance-related Disorders in College-age Musicians” *Music and Medicine* 2(2), 109-116.
- Moore, G. (2013) “Mind the Gap: Privileging Epistemic Access to Knowledge in the Transition from Leaving Certificate Music to Higher Education” *Irish Educational Studies* 33(3), 249-268.
- Moore, G. (2012) “‘Tristan Chords and Random Scores’: Exploring Undergraduate Students’ Experiences of Music in Higher Education through the Lens of Bourdieu” *Music Education Research* 14(1), 63-78.
- Otchere, E. D. (2015) “Music Teaching and the Process of Enculturation: A Cultural Dilemma” *British Journal of Music Education* 32(3), 291-297.
- Parkinson, T. and Smith, G. D. (2015) “Towards an Epistemology of Authenticity in Higher Popular Music Education” *Action, Criticism, and Theory for Music Education* 14(1), 93-127.
- Parkes, K. A., Daniel, R. West, T. and Gaunt, H. (2015) “Applied Music Studio Teachers in Higher Education: Exploring the Impact of Identification and Talent on Career Satisfaction” *International Journal of Music Education* 33(3), 372-385.
- Parkes, K. A. and Daniel, R. (2013) “Motivations Impacting upon Music Instrument Teachers’ Decisions to Teach and Perform in Higher Education” *British Journal of Music Education* 30(3), 397-414.
- Partti, H. (2012) “Cosmopolitan Musicianship under Construction: Digital Musicians Illuminating Emerging Values in Music Education” *International Journal of Music Education* 32(1), 3-18.
- Paşca, E. M. (2016) “Variables and Constants in the Curriculum for the Music Specialisations of the Romanian University Education” *Review of Artistic Education* 11+12, 253-252.
- Pitts, S. E. (2013) “Would You Credit It? Navigating the Transitions between Curricular and Extra-curricular

- Learning in University Music Departments” *Arts and Humanities in Higher Education* 12(2-3), 194-203.
- Przybylski, L. and Niknafs, N. (2015) “Teaching and Learning Popular Music in Higher Education through Interdisciplinary Collaboration: Practice What You Preach” *IASPM Journal* 5(1), 100-123.
- Roenfeldt, P. (2011) “Beyond the Ivory Tower—Higher Education Institutions as Cultural Resource: Case Study of the Queensland Conservatorium of Music” *History Compass* 9(4), 231-245.
- Schmidt, P. and Robbins, J. (2011) “Looking Backwards to Reach Forward: A Strategic Architecture for Professional Development in Music Education” *Arts Education Policy Review* 112(2), 95-103.
- Song, A. (2013) “Music Improvisation in Higher Education” *College Music Symposium* 53.
- Spencer, M. T. (2013) “Jazz Education at the Westlake College of Music, 1945–61” *Journal of Historical Research in Music Education* 35(1), 50-65.
- Steinmetz, A., Möller, H., Seidel, W. and Rigotti, T. (2012) “Playing-related Musculoskeletal Disorders in Music Students-associated Musculoskeletal Signs” *European Journal of Physical and Rehabilitation Medicine* 48(4), 625-633.
- Ben-Tal, O. and Salazar, D. (2014) “Rethinking the Musical Ensemble: A Model for Collaborative Learning in Higher Education Music Technology” *Journal of Music, Technology & Education* 7(3), 279-294.
- Tanwinit, A. and Sittiprapaporn, W. (2010) “Learning Styles of Undergraduate Musical Students Attending Music College in Thailand” *Revista Electrónica de LEEME* 25, 149-163.
- Thibeault, M. D. (2012) “From Compliance to Creative Rights in Music Education: Rethinking Intellectual Property in the Age of New Media” *Music Education Research* 14(1), 103-117.
- Weston, D. (2017) “The Place of Practice in Tertiary Popular Music Studies: An Epistemology” *Journal of Popular Music Education* 1(1), 101-116.
- Wristen, B. G. (2013) “Depression and Anxiety in University Music Students” *Applications of Research in Music Education* 31(2), 20-27.
- Yang, Y. and Welch, G. (2016) “Pedagogical Challenges in Folk Music Teaching in Higher Education: a Case Study of Hua’ er Music in China” *British Journal of Music Education* 33(1), 61-79.
- Yumeng, H. (2016) “Research of Music Talent Cultivation Based on Practice Education” *Proceedings of the 2016 2nd International Conference on Social Science and Higher Education* 360-363.
- Zakaria, J. B., Musib, H. B. and Shariff, S. M. (2013) “Overcoming Performance Anxiety among Music Undergraduates” *Procedia - Social and Behavioral Sciences* 90(10), 226-234.
- Zander, M. F., Voltmer, E. and Spahn, C. (2010) “Health Promotion and Prevention in Higher Music Education: Results of a Longitudinal Study” *Medical Problems of Performing Artists* 25(2), 54-65.

美術分野

- Alexandrova, N. (2020) “Priorities for the Development of Ecological Education in an Art University” *Ecopoiesis: eco-human theory and practice* 1(1), 34-40.
- Banks, M. and Oakley, K. (2016) “The Dance Goes on Forever? Art schools, Class and UK Higher Education” *International Journal of Cultural Policy* 22(1), 41-57.
- Beene, S. and Robinson, S. M. (2017) “When Research Does Not Start with a Question: Teaching with the Framework and Visual Literacy Standards within Art and Architecture Librarianship” *Art Documentation: Journal of the Art Libraries Society of North America* 36(2), 254-280.
- Bhowmik, R. (2015) “150 Years of Calcutta’ s Heritage Art-College: A Comprehensive Study of Its Present Declining Situation” *European Academic Research* 3(2), 1428-1444.
- Broadhead, S. (2017) “All I Want to Do Is Make Things: Class, Men and Art and Design Higher Education” *Widening Participation and Lifelong Learning* 9(2), 47-62.
- Broadhead, S. (2014) “Inclusion, Democracy and the Pedagogised Other in Art and Design Higher Education” *Enhancing Learning in the Social Sciences* 6(1), 42-55.
- Burke, P. J. and McManus, J. (2011) “Art for a Few: Exclusions and Misrecognitions in Higher Education Admissions Practices” *Discourse: Studies in the Cultural Politics of Education* 32(5), 699-712.
- Camino, M. (2010) “An Examination of the Journal Used as a Vehicle to Bring about a Synthesis between Theory and Practice in Art and Design Higher Education” *Journal of Writing in Creative Practice* 3(3), 317-340.
- Clark, I. N. (2011) “Supporting Artists in the Gallery: The Role of the Museum Educator at an Art College” *MALS Final Projects, 1995-2019* 76.
- Costantino, T. (2015) “Lessons from Art and Design Education: The Role of In-process Critique in the Creative Inquiry Process” *Psychology of Aesthetics Creativity, and the Arts*, 9(2), 118-121.
- O’Donoghue, D. (2011) “Has the Art College Entry Portfolio Outlived Its Usefulness as a Method of Selecting Students in an Age of Relational, Collective and Collaborative Art Practice?” *International Journal of Education & the Arts* 12(3), 1-27.
- Fan, R. (2021) “International Accreditation of Digital Media Art Undergraduate Program Based on the UK Higher Education Quality Standards” *ICIMTECH 21: The Sixth International Conference on Information Management and Technology* 1-4.

- Gale, C. (2020) "Art School as a Transformative Locus for Risk in an Age of Uncertainty" *Art, Design & Communication in Higher Education* 19(1), 107-118.
- Ganem, N. M. and Manasse, M. (2011) "The Relationship between Scholarships and Student Success: An Art and Design Case Study" *Education Research International* 1-8.
- Gharehbaglou, M. and Kargar, T. (2017) "New Insight into the Creative Urban Clusters: The Potentials of Joint Space between Naqhshe Jahan Square and the Art University of Isfahan as an Attractive Place for the Creative Class" *The Scientific Journal in the Field of Theoretical Studies of Art and Architecture* 13(45), 43-60.
- Giloi, S. and du Toit, P. (2013) "Current Approaches to the Assessment of Graphic Design in a Higher Education Context" *The International Journal of Art & Design Education* 32(2), 256-268.
- Giuntini, P. and Venturini, J. M. (2014) "Learning by Doing: Using ePortfolios for Assessment at Otis College of Art and Design" *Library Hi Tech News* 31(7), 11-15.
- Greene, J. A., Freed, R. and Sawyer, R. K. (2019) "Fostering Creative Performance in Art and Design Education via Self-regulated Learning" *Instructional Science* 47, 127-149.
- Gui, Y. (2019) "Relationship between Academic Self-efficacy and Academic Procrastination of Art Collage Student" *Proceedings of 9th International Conference on Social Science and Education Research* 761-766.
- Harland, R. and Sawdon, P. (2012) "From Fail to First: Revising Assessment Criteria in Art and Design" *Art, Design & Communication in Higher Education* 10(1), 67-88.
- Hayton, A. R., Haste, P. and Jones, A. (2015) "Promoting Diversity in Creative Art Education: The Case of Fine Art at Goldsmiths, University of London" *British Journal of Sociology of Education* 36(8), 1258-1276.
- Heinrich, F. and Kornøv, L. (2021) "Art and Higher Education for Environmental Sustainability: a Matter of Emergence?" *International Journal of Sustainability in Higher Education* ahead-of-print.
- Heruti, V. (2019) "Reading Personal Photographs: a Case Study at an Israeli Art College on Multiple Identities" *Journal of Visual Literacy* 38(1-2), 130-141.
- Hongmei, Z. and Ni, W. (2016) "On English Learning Motivation of Art College Students" *Proceedings of China's First International Symposium on Ethnic Languages and Culture under "The Belt and Road Initiatives"* 60-65.
- Howe, A. (2011) "Best Practice in Disability Provision in Higher Education Libraries in England Specializing in Art, Media, and Design" *New Review of Academic Librarianship* 17(2), 155-184.
- Hu, Z. (2020) "Promoting the Study Style Construction of Art College Students by Using Studios as Carrier" *Advances in Social Science Education and Humanities Research* 493, 339-343.
- Huang, Y. (2019) "Research on the Ways to Cultivate Core Literacy of the Art College Students" *Proceedings of 2019 International Conference on Reform, Technology, Psychology in Education (ICRTPE 2019)* 83-87.
- McHugh, C. (2014) "'I've not Finished' : Why Studios Are Still a Fundamental Requirement in the Study of Fine Art" *Journal of Visual Art Practice* 13(1), 30-40.
- Ilkevich, B. V., Ilkevich, K. B. and Nikonov, V. V. (2015) "The Basic Ideas of the Concept of Professionally-Motivating Industrial Art Education" *Asian Social Science* 11(1), 347-353.
- Jacobson, S. K., Seavey, J. R. and Mueller, R. C. (2016) "Integrated Science and Art Education for Creative Climate Change Communication" *Ecology and Society* 21(3).
- Jian, L. (2020) "Analysis of the Status Quo and Strategy of Mental Health Education for Art College Students" *Frontiers in Educational Research* 3(2), 77-80.
- Kenning, D. (2019) "Art World Strategies: Neoliberalism and the Politics of Professional Practice in Fine Art Education" *Journal of Visual Art Practice* 18(2), 115-131.
- Logan, C. (2013) "Living Artists: Identity, Independence and Engagement in Fine Art Learning" *Art, Design & Communication in Higher Education* 12(1), 33-48.
- Luo, B. and Wang, Y. (2019) "Research on Innovation and Entrepreneurship Education for Art College Students against the Background of Transformation of Local Universities" *Proceedings of the 4th International Conference on Contemporary Education, Social Sciences and Humanities* 507-511.
- Lyon, P., Letschka, P., Ainsworth, T. and Haq, I. (2018) "Drawing Pedagogies in Higher Education: the Learning Impact of a Collaborative Cross-disciplinary Drawing Course" *The International Journal of Art & Design Education* 37(2), 221-232.
- Ma, H., Shao, J. and Fang, B. (2019) "Research on Process-Based Comprehensive Testing Method for Private Artistic College Teachers" *Proceedings of 3rd International Conference on Advancement of the Theory and Practices in Education* 1371-1376.
- Maguire, D. (2015) "Transitioning from Secondary School to Art College - Are Guidelines for Entrance Portfolios an Institutional Barrier to Visual Arts Higher Education in Ireland?" *Visual Inquiry* 4(1), 63-78.
- Meeks, A., Garcia, L., Peterson, A. and Vincent, A. (2017) "CREATE: Adapting the Framework to Studio Art disciplines" *College & Research Libraries News* 78(10), 554-559.
- Mengyi, X. (2021) "'Hollow Heart Disease' among Contemporary Art Students in College and Ways to Tackle It" *Proceedings of the 2021 2nd International Conference on Mental Health and Humanities Education* 262-266.
- Orr, S. and Bloxham, S. (2012) "Making Judgements about



- Students Making Work: Lecturers' Assessment Practices in Art and Design" *Arts and Humanities in Higher Education* 12(2-3), 234-253.
- Orr, S. (2010) "We Kind of Try to Merge Our Own Experience with the Objectivity of the Criteria: The Role of Connoisseurship and Tacit Practice in Undergraduate Fine Art Assessment" *Art, Design & Communication in Higher Education* 9(1), 5-19.
- Peng, C. (2012) "Self-regulated Learning Behavior of College Students of Art and Their Academic Achievement" *Physica Procedia* 33, 1451-1455.
- Robins, C. (2016) "Who Assesses the Assessors? Sustainability and Assessment in Art and Design Education" *The International Journal of Art & Design Education* 35(3), 348-355.
- Roth, N. (2010) "Writing as Pretext: On the Way to an Image" *Arts and Humanities in Higher Education* 9(2), 256-264.
- Salazar, S. (2016) "A Portrait of the Artists as Young Adults: A Longitudinal Study of Art College Graduates" *Art, Design & Communication in Higher Education* 15(2), 145-159.
- Salazar, S. K. (2014) "Educating Artists: Theory and Practice in College Studio Art" *Art Education* 67(5), 32-39.
- Salazar, S. K. (2013) "Laying a Foundation for Artmaking in the 21st Century: A Description and Some Dilemmas" *Studies in Art Education* 54(3), 246-259.
- Sclater, M. (2016) "Beneath Our Eyes: An Exploration of the Relationship between Technology Enhanced Learning and Socio-Ecological Sustainability in Art and Design Higher Education" *The International Journal of Art & Design Education* 35(3), 296-306.
- Shreeve, A., Sims, E. and Trowler, P. (2010) "'A Kind of Exchange': Learning from Art and Design Teaching" *Higher Education Research & Development* 29(2), 125-138.
- Szeto, E. (2010) "Framing an Integrated Framework of Design Curriculum in Higher Education: Understandings, Meanings and Interpretations" *Art, Design & Communication in Higher Education* 9(1), 75-93.
- McTernan, F. (2019) "Time and Space: Access and the Lifecycle of the Art Student" *The International Journal of Art & Design Education* 39(2), 280-289.
- Thom, M. (2017) "Arts Entrepreneurship Education in the UK and Germany: An Empirical Survey among Lecturers in Fine Art" *Education + Training* 59(4), 406-426.
- Thompson-Whiteside, S. (2016) "Zen and the Art of University Rankings in Art and Design" *She Ji: The Journal of Design, Economics, and Innovation* 2(3), 243-255.
- Trihanondo, D. and Endriawan, D. (2019) "Website Development of Indonesian Art Higher Education Institutions Historical Archives" *IOP Conference Series: Materials Science and Engineering* 662(2), 1-6.
- Trowler, P. (2013) "Can Approaches to Research in Art and Design be Beneficially Adapted for Research into Higher Education?" *Higher Education Research & Development* 32(1), 56-69.
- Wang, R. (2018) "The Influence of 'Cynicism' on College Students of Contemporary Art and Its Performance" *Proceedings of the 2nd International Conference on Art Studies: Science, Experience, Education* 856-858.
- Winters, T. (2011) "Facilitating Meta-learning in Art and Design Education" *The International Journal of Art & Design Education* 30(1), 90-101.
- Zhou, W. F. and Li, L. (2015) "The Research on the Function of College Students' Ideological and Political Education to College Students' Employment" *The Open Cybernetics & Systemics Journal* 9, 1806-1813.